



114
A1001



勸業學抄譯

原本六十七葉

大正十一年四月
限侯爵郵寄贈

英國其製造品ヲ以テ他國
ノ市場ヲ侵襲スルノ景況

内地ノ工業ヲ盛ニシ、專賣ノ權ヲ握リ、通商ノ利ヲ
占メ、以テ己ヲ富マサントスルノ執心ハ、獨リ一家
一社ノ如キ小ナルモノニミ存スルニアラスニ
テ、一國一州ノ如キ大ナルモノニモ亦存スルナリ、
故ニ某國ニ於テハ、誓テ外品ノ輸入ヲ防キテ内國
ノ製作ヲ保護スルヲ策ノ得タルモノトセリ、又或
ハ獨リ内國製作ノ保護ニノミ止マラス、故ニ恩賞
金ヲ輸出品ニ與ヘテ頻リニ之ヲ獎勵スルモノアリ、
觀ルヘシ佛國ノ甘蔗製造ヲ保護シタルヲ、又英
國ノ如ク常ニ自由貿易ヲ嗜好スル國スラ尚ホ力

大正十一年四月

ヲ極メテ間接ニ他國ノ競争ヲ防カント欲シテ巨額ノ資本ヲ募リ、以テ之ヲ壓倒セントシタリ、當今英國工業ノ形状ヲ視ルニ、百般ノ工作中最モ鴻益アルモノハ一トシテ占有セサルナシ、蓋シ英ノ國タル石炭鑛鐵ノ天富アリ、加フルニ善工利器多ク且巨額ノ資本ヲ貯ヘタリ、已ニ此ノ如クナレハ製作ヲ以テ宇内ニ冠タルモ亦怪ムニ足ラサルヘシ、サレドモ此勢ヲ得タル所以ヲ推考スレハ、畢竟工錢ノ廉ナルカ為メナリ、故ニ若シ工錢騰貴スルコトハ之ヲ失ハサラント欲スルトモ得ヘカラザルヘシ、サレバ英國貿易ノ盛衰ハ工錢ノ貴賤ニアリト云フモ不可ナルコトナカルヘシ、又傭主ハ工錢ノ廉ナランコトヲ欲シ、工夫ハ工錢ノ貴カラシムコトヲ欲

スルカ故ニ傭主ト工夫トノ間ニ爭論ヲ起スコトアルモ、蓋シ此意アルヲ以テナラン、サレドモ能ク他國ノ市場ヲ侵スコトヲ得ラル、ハ、獨リ工錢ノ廉ナルカ為メノミナラス巨額ノ資本ヲ有スルヲ以テナリ、何トナレハ何レノ國ト雖モ、英國ニ對シ競争スルモノアレハ、輒チ忽チ巨額ノ資本ヲ募集シ、其競争スル所ノ品物ヲ多數製造シテ之ヲ輸送シ、務テ賤價ニテ之ヲ發賣シテ、曾テ損失ヲ顧ミス、益資本ニ多キヲ加ヘテ敵手ヲ壓倒シ、終ニ其市場ヲ奪ヒシコト數ナレハナリ、吾輩聞ク英人ハ萬里ノ波濤ヲ越エ遠ク海外ニ出テ、專賣獨業ノ利ヲ占メントスル中ハ、敢テ損毛ヲ顧ミス熱心之ヲ務ムルカ故ニ、僅カニ貳三年之間ニ三四百萬磅ノ巨額ヲ失ヘ

ル丁アリト、然レモ英人ノ巧ミナル、敵手一旦覺ル
、中ハ再ヒ直チニ資本ヲ募リテ彼レ復タ起テ競
争ヲ始ムルノ前ニ於テ大ニ通商ヲ盛ヒシテ替時
ニ其損耗ヲ復スル丁數ナリ、或人言ヘルコアリ英
國ハ資本ヲ以テ他國ノ市場ヲ侵襲スルハ攻具下
ナスト、昔ヒカナ言ヤ

又英ノ通商政畧ノ大旨ハ、專ラ自國ノ製作ヲ盛大
ニシテ他國ノ市場ヲ侵シ、以テ專賣獨業ノ術ヲ施
スニアリ、觀ヨ米ノ未タ英屬タリシ時英國ノ下院
ニ於テ米國ノ馬ハ總テ故ラニ英ニ送リテ錢鞋ヲ
釘センコヲ議セリト、又愛爾蘭ヲ處分シタルヲ觀
レハ、毛織物、野菜、塩漬ノ食料等、製造場ヲ毀タシ
メ、殊ニ亞麻ノ製造ヲ衰ヘシメタリ、嗚呼屬國ヲ

蔑視スル亦甚タシカラスヤ、是ニ由テ觀ルルハ、夫
ノ米國カ本國ノ羈絆ヲ脱シテ能ク獨立ヲ全ウシ
タルハ怪ムニ足ラサルナリ、若シ此壓制ヲ解カサ
レハ、他日又他ノ屬國ニ於テ米ノ例ニ準ヒ羈絆ヲ
脱セント謀ルモノナキヲ保タサルナリ、或ハ曰ク
英國ハ通商上ノ利益ノ為メニ更ニ方向ヲ變シテ
從來ノ權謀ヲ止メ、大ニ屬國ニ自由ヲ與ヘタリト、
奚ソ説ノ惑ヘルヤ、吾輩ハ決シテ此ノ如キ説ヲ信
ズル丁能ハサルナリ、因テ今左ニ印度ノ綿布稅ニ
就テ如何ナル景況ヲ生セシヤヲ說解シ、以テ此誤
謬ヲ明カスヘシ、夫レ曩ニ印度ニ輸入スル綿布ニ
ハ三分ヨリ五分ノ從價稅ヲ課シテ綿花ニハ曾テ
稅ヲ課サ、リシナリ、元來綿布ノ如キハ貧富トモ

大 裁 首

ニ之ヲ需用スルモノナルカ故ニ、斯ク從價稅ヲ以テ公平ニ課サンニハ、人民ニ在テハ其力相應ニ納稅スルヲ得、政府ニ在テハ課收ノ年數モ簡易ナルヲ以テ大額ヲ集收スルヲ得ヘシ、故ニ印度ノ如キ地ニハ綿布稅ハ別シテ益アルナリ、抑、初メ此稅ヲ課セシ頃ハ内地ニ未タ木綿工場アラサリシヲ以テ專ラ收稅ノ一方ニシテ毫モ製造ヲ保護スルノ意ナカリシカ、近來印度人彼ノ輸入品ヲ厭ヒ内地ニ工場ヲ開クニ方テ談稅率ニ之ヲ保護スルノ便トナレリ、又「ランカシエ」英國ノ一州ニテ人員貳百萬余アリ、製造人ハ初メ印度ノ工場ノ徵々タリシ頃ニハ曾テ不平ノ色ヲ露ハサハリシカ、漸ク盛大ヲ致シ英產ト競フヘキ勢アルヲ見

テ忍テ猜忌ノ念ヲ生シ東印度主事^{セシタリ}ニ請フテ輸入稅ヲ廢セント欲セリ、即チ其主張スル所ノ說ニ曰ク、之ヲ廢スルキハ貧民ノ幸福ヲ増スヘシト、是何等ノ道理ニ據テ吐ケル說ソヤ、吾輩ハ解スル能ハサルナリ、若シ此稅ヲ廢セハ却テ貧民ノ不幸ヲ増スヘシ、然ルニ東印度主事此請ヲ聽ルシテ之ヲ廢セントセシカ、奈何セン歲入ニ數百萬ノ減額ヲ生スルヲ以テ、此事果シテ行ハレサリシハ印度人民ノ為メニハ大ニ幸福ト謂フヘシ、東印度主事ハ此事ヲ果サリシヲ以テ、他ニ權謀ヲ設ケ綿布稅ヲ減殺シテ更ニ棉花ニ五分ノ輸入稅ヲ課シタリ、是實ニ一千八百七拾五年ノ事ナリ、此新稅ノ如キハ奇ノ又奇ナルモノト謂フヘシ、何等ノ據ル所アリ

大歳

テ之ヲ課セルヤ其實未タ解スル能ハスト雖モ竊
ニ之ヲ推スニ、綿布税ノ廢スヘキヲ廢セスシテ之
ヲ減殺シ、更ニ綿花ニ五分ノ税ヲ課シ、陽ニ印度ヲ
惠ムノ形ヲ示シテ實ハ英ノ製造家ヲ保護スルノ
策ナルヤ必セリ、何トナレハ印度産ノ綿花ハ産出
額少ナク隨テ其價貴ク、然ルニ輸入品ハ其量多ク
且價モ廉ナルカ故ニ、勢ヒ之ヲ用ヒサレハ製造ヲ
管ム丁能ハサルヲ以テ、此税ヲ拂ハサルヲ得サレ
ハナリ、之ヲ競馬ニ譬フレハ、印度ノ馬ハ英ノ馬ヨ
リ駿キヲ以テ、其馳驅ノ力ヲ平均ナラシメンカ馬
ノ、印度ノ馬ニ重量ノモノヲ負ハシメテ之ヲ運カ
ラシムルニ異ナラス、豈卑劣ノ舉ナラスヤ、蓋シ是
印度政府已レノ左計ヲ舉ケテ其信義ヲ缺クヘキ

證ヲ表ハスニ足レリ、印度人民ハ固ヨリ已ニ廢税
ニハ不服ナルニ、更ニ又新税ヲ起シタルハ實ニ驚
歎ニ絶エサルナリ、是獨リ製造家ノミニ恠ムニアラ
ス、他業ヲ管ム者ト雖モ皆之ヲ恠メリ、誠ニ此新税
ノ為メニ内地ノ工場ハ忍テ衰頽シ、ランカシエル
ノ工場ハ永ク印度ノ市場ヲ侵ス丁ヲ得ヘシ、抑各
國相互ニ他國ノ土宜ヲ閑キ、以テ之ヲ盛ナラシム
ルニ須要ナル未經造品ヲ自由ニ輸入セシメント
獎勵スルハ、英國及他ノ文明國ノ一大道理トシテ
之ヲ主張スル所ナレド、此新税ハ大ニ之ニ背及ス
ルナリ
此新税ヲ發スルニ方テ、カルキユタ新聞紙上ニ一
篇ノ論說ヲ掲ケタリ、今左ニ其畧ヲ載ス

今回政府カ癸行シタル如キ苛税ヲ良民ニ課セン
トスルハ最モ苛酷ノ處置ト言ハサルヘカラス凡
ソ未經造品ニ課税スルハ時トシテ或ハ害ヲ免カ
ル、丁ナキニシモアラサレバ、今此ノ如ク故ラニ
輸入ノ綿花ニ課税スル中ハ必ラス大害ヲ来ス
キナリ、若シ綿花ニ課サスニテ綿布税ノミヲ減殺
スレハ、英ノ製造家ハ敵ヲ破ル丁能ハスレテ必ラ
ス敗績スヘク、政府モ亦綿布税ヲ減殺スルノミニ
テハ大ニ恐ル、所アリ、何トナレハ若シ一種ノ綿
布ノ税ヲ減殺スレハ、勢ヒ他ノ種類ニモ及ホザ、
ルヲ得サルカ故ニ、終ニハ歳入ヲモ減少スルハ虞
ナキヲ保タサレハナリ、故ニ彼レ此權謀ヲ設ケテ、
一ニハ則チ歳入ヲ増シ、一ニハ則チ英ノ製造家ヲ

保護シ、以テ印度ノ工場ニ須要ナル未經造品ヲ與
ヘサ、テント欲スルナリ、最モ無情ノ策ト言ハサル
ヘケンヤ、專制無智ノ政府ニアラサルヨリハ、孰レ
カ此ノ如キ税法ヲ設クルモ、アラシヤ

大
歳



